

表紙の名品 「重文十二神将立像(辰神)」

裏表紙に掲載してるほ！



# 東京国立 博物館 ニユース

展示と催し物案内  
第775号

2023-2024

12.1.2

## 博物館に初もらで

特別展「本阿弥光悦の大宇宙」／建立900年 特別展「中尊寺金色堂」  
特別展「法然と極楽浄土」／本館4室リニューアルオープン！



# 日本ならではの お正月を、トーハクで！ 博物館に初もうで

2024年  
1月2日(火)  
～  
1月28日(日)

新春恒例「博物館に初もうで」では、新年の干支「辰」をテーマにした特集や、お正月らしい吉祥作品の数々をお楽しみいただけます。  
お正月限定のイベントも開催。天翔ける龍のように、勢いよく飛び立つパワーがみなぎってくるかもしれません！

他にもお正月らしい  
作品がたくさんあるから  
展示室で試してみてください！



トーハクくん  
東京国立博物館  
公式キャラクター

## ◎龍灣螺鈿花盆

中国 元時代・14世紀

発色の異なる貝片を使い分けて、波の上で体をうねらせる龍を表しています

(部分)



## ◎五龍図巻

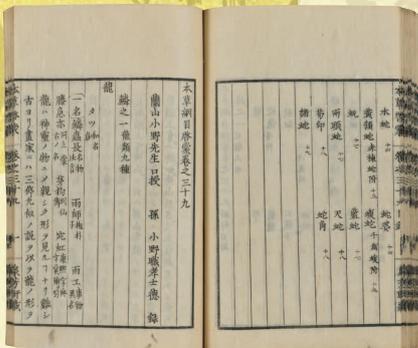
伝陳容筆  
中国 南宋時代・13世紀

黒雲の中にあらわれた5匹の龍がこちらを睨んでいます。水をつかさどる龍の神秘的な力を感じさせます



ウリノキちゃん  
東京国立博物館  
公式キャラクター

龍をあしらった  
作品や吉祥作品に、  
元気がもらえそうね！



## 本草綱目啓蒙

巻37・38 虫部、巻39 鱗部

小野蘭山述、小野蕙敬記  
江戸時代・文政12年(1829)

本草学者小野蘭山の講義の記録書。蘭山は、龍は神霊の生き物ゆえ直接見られないと説明したようです

1年のはじまりを**寿ぐ**、**雄々**しき**龍**のすがた

本館 特別1室  
特集 博物館に初もうで  
**謹賀辰年**  
—年の初めの龍づくし—

令和6年(2024)は辰年。「辰」は十二支の5番目で、十二支に割りあてられた動物(十二支獣)において、辰には龍があてられています。龍は十二支獣の中で唯一想像上の動物です。

本特集は、「龍慶閣辰 めでたし書画」、「龍は何しに日本へ!」、「細工は龍龍仕上げをご覧ください」、「筋骨龍龍 今年こそ理想の体型に!」の4つのテーマを設けて、龍に命を吹き込みたいかのように技巧を凝らした作品や、たくましくもユーモラスな姿にかたちづくられる龍の造形をお楽しみいただけます。

みなさまの新しい1年が、龍が如く飛翔する年になりますように。そして、2024年も東京国立博物館をどうぞよろしく願います。(長倉絵梨子)

龍飛鳳舞  
丙寅仲冬之月  
御筆

## 楷書四字軸「龍飛鳳舞」

康熙帝筆 中国  
清時代・康熙25年(1686)  
高島菊次郎氏寄贈

清朝4代皇帝康熙帝の書。「龍飛鳳舞」は雄大で立派な様子のたとえです

# 新春イベント

▽催し物 ※各30分程度

2024年1月2日(火)  
11:00/13:15 和太鼓  
湯島天神白梅太鼓 本館前  
11:45/14:00 獅子舞  
葛西囃子中村社中 本館前



過去のイベントの様子

2024年1月3日(水)  
11:00/13:15 和太鼓 湯島天神白梅太鼓 本館前  
11:45/14:00 獅子舞 葛西囃子中村社中 本館前  
12:30/14:45 クラリネット・コンサート ジュリアンス  
平成館ラウンジ

▽いけばな

2024年1月2日(火)~14日(日)  
正門 本館玄関 本館エントランス  
真生流 山根由美氏

▽TNM & TOPPAN ミュージアムシアター  
よりプレゼント

2024年1月2日(火)・3日(水)  
VR作品『江戸城の天守』を鑑賞された方に、次回以降お  
使いいただける鑑賞チケット引換券(有効期限:2024年  
1月4日(木)~6月30日(日))をプレゼントします。  
※鑑賞には別途料金および当日の予約が必要です。  
※上演作品等の詳細はウェブサイト([http://www.toppa-  
vr.jp/mt/](http://www.toppa-<br/>vr.jp/mt/))をご覧ください。

▽ミュージアムショップよりプレゼント

2024年1月2日(火)・3日(水)  
当館の全ミュージアムショップで合計3,000円(税込)  
以上お買い上げのお客様に、ミュージアムショップの  
グッズをプレゼントします。(両日ともなくなり次第  
終了。当館の全ミュージアムショップでのお買い物が  
対象、引き渡しは本館ミュージアムショップでのみ対応)

▽美術図書バーゲンセール

2024年1月2日(火)・3日(水)  
本館ミュージアムショップのみ対象です。

▽ホテルオークラレストラン ゆりの木で割引

2024年1月2日(火)・3日(水)  
レストラン ゆりの木で5,000円(税込)以上ご利用の  
お客様は、お会計から10%割引します。

▽寛永寺根本中堂特別参拝

2024年1月2日(火)・3日(水) 10:00~15:00  
根本中堂、四天王像などを公開します。

# 吉祥

松・竹・梅に龍など、日本と東洋の  
吉祥文様をぜひ探してみてください。

## 本館

## 竹

いろえなげすどくり  
色絵竹図德利

京焼・御菩薩池  
江戸時代・17~18世紀  
本館13室  
2024年1月2日(火)~6月2日(日)



## 松

うちかけ べにりんず し  
打掛 紅綸子地  
しょうちくばいつつかめ もよう  
松竹梅鶴亀模様

江戸~明治時代・19世紀  
古屋圭司氏・谷口八季氏・  
古屋英司氏寄贈  
本館10室  
2024年1月2日(火)~3月3日(日)



## 富士山

ふかくずふたごころもの  
富嶽図二所物

平田道仁 安土桃山~江戸時代・16~17世紀  
本館13室 2024年1月2日(火)~3月10日(日)



## 梅

ばいかず  
梅花図

さかきおのゝ  
彭城百川筆 江戸時代・18世紀  
本館8室  
2024年1月2日(火)~  
2月18日(日)



## 東洋館

## 龍

うんりゅうてんしつたく  
雲龍填漆托

「大清乾隆年製」銘  
中国  
清時代・乾隆年間(1736~95)  
東洋館9室  
2024年1月2日(火)~3月31日(日)



ごさいりゅうもんほうへい  
五彩龍文方瓶

中国・景德鎮窯 「大明万曆年製」銘  
明時代・万曆年間(1573~1620)  
横河民輔氏寄贈  
東洋館5室  
2024年1月2日(火)~4月21日(日)



# 新春の名品

当館、お正月ならではの名品を  
ご紹介します。



いろえなげつばいずちやつぼ  
色絵月梅図茶壺

仁清、「仁清」印 江戸時代・17世紀  
本館13室 2024年1月2日(火)~3月10日(日)



(部分)

しょうりんずひょうぶ  
松林図屏風(→8ページ)

長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀  
本館2室(国宝室)  
2024年1月2日(火)~14日(日)



ごきんわかしゅう げんえいほん しょうじょう (→8ページ)  
●古和歌集(元永本)上帖 (→8ページ)

平安時代・12世紀 三井高大氏寄贈  
本館3室 2024年1月2日(火)~14日(日)

たち さんじょうむねちか めいぶつ みかづきむねちか  
●太刀 三条宗近(名物 三日月宗近)

(→10ページ)  
三条宗近 平安時代・10~12世紀 渡邊誠一郎氏寄贈  
本館13室 2024年1月2日(火)~3月3日(日)





◎黒楽茶碗 銘 時雨

本阿弥光悦作  
江戸時代・17世紀  
愛知・名古屋市博物館蔵  
見込みはぐっと深く、まさに「宇宙」のように大きく感じられるのが楽茶碗の特徴です



◎赤楽茶碗 銘 加賀

本阿弥光悦作  
江戸時代・17世紀  
京都・相国寺蔵  
腰が強く張り出した形と、大胆で力強い篋削りが印象的な赤楽茶碗の名品です

## 特別展

# 「本阿弥光悦の大宇宙」

平成館特別展示室 2024年1月16日(火)～3月10日(日)

本阿弥光悦(1558～1637)の類まれなる創造性にさまざまな角度から迫る本展では、その締めくりに手握りの茶碗を選びご紹介していきます。土の塊を叩いて延ばし、両方の掌を使って茶碗の原型をつくり、さらにそれを篋削り込んで作る光悦の茶碗。代表作である「黒楽茶碗 銘 時雨」(愛知・名古屋市博物館蔵)をはじめとして、ざらざらと土の質感を残した器膚や鋭い篋削りなど、光悦の眼と手の動きが生き生きと感じられるような、じつに表情豊かな名碗が一堂に会します。貴重な機会をどうぞお見逃しなく。(三笠景子)

観覧料：一般2,100円(1,900円)、大学生1,300円(1,100円)、高校生900円(700円)

※( )内は前売料金

※前売券は2024年1月15日(月)まで、展覧会公式サイト等で販売。

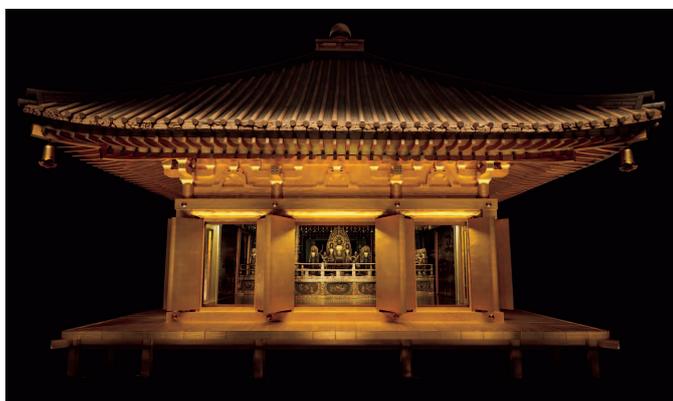
※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

展覧会公式サイト：<https://koetsu2024.jp/>



◎金銅迦陵頻伽文華鬘

平安時代・12世紀  
岩手・中尊寺金色院蔵  
輝かしい極楽浄土を表現するために飾られた華麗な荘厳具です



©NHK

## 8KCGで再現した中尊寺金色堂

上野に金色堂がやってくる!? ディスプレイ上で原寸大で再現される金色堂は大迫力です

## 建立900年 特別展

# 「中尊寺金色堂」

本館特別5室 2024年1月23日(火)～4月14日(日)

国宝・中尊寺金色堂は奥州藤原氏の初代・藤原清衡(1056～1128)が建立した東北地方の現存最古の建造物です。本展では、清衡が眠る堂内中央壇に安置される国宝の仏像11体すべてを初めて寺外で一堂に展示するとともに、かつて金色堂を荘厳していたまばゆい工芸品などをご紹介します。そのひとつである「国宝 金銅迦陵頻伽文華鬘」は、堂内の長押にかかっていたもので、極楽に住んで美声で説法するという迦陵頻伽(上半身が人の姿をした空想上の鳥)が表されています。また、会場内の大型ディスプレイでは金色堂を8KCGの技術を用い原寸大で再現します。この世の浄土ともいべき輝きに満ちた信仰空間を体感してください。(猪熊兼樹)

観覧料：一般1,600円(1,400円)、大学生900円(700円)、高校生600円(500円)

※( )内は前売料金

※前売券は2024年1月22日(月)まで、展覧会公式サイト等で販売。

※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

展覧会公式サイト：<https://chusonji2024.jp/>



とくがわいやすぎざう  
◎徳川家康坐像

江戸時代・17世紀 京都・知恩院蔵  
展示期間：2024年4月30日(火)～6月9日(日)

浄土宗寺院を菩提寺とした家康が知恩院を生母の菩提所とした後、造らせたと伝える像

特別展

ほうねん ごくらくじょうど  
「法然と極楽浄土」

平成館特別展示室 2024年4月16日(火)～6月9日(日)

内乱や災害の頻発によって人びとが疲弊していた平安時代末期、比叡山で学んだ法然(1133～1212)は、「南無阿弥陀仏」と称えることによって誰もが等しく阿弥陀仏に救われ、極楽浄土に往生することを説き、承安5年(1175)浄土宗を開きました。その教えは多くの人びとに支持され、現代に至るまで連綿と受け継がれています。

本展は、令和6年(2024)に浄土宗開宗850年を迎えるのを機に、法然による開宗から弟子たちによる諸流派の創設、徳川將軍家の帰依によって大きく発展を遂げるまでを、全国の浄土宗諸寺院等が所蔵する国宝、重要文化財を含む貴重な名宝によってたどりま。850年の歴史で度々重要な舞台となった関東の浄土宗寺院のさまざまな宝物もご紹介します。ぜひご来場ください。(瀬谷愛)

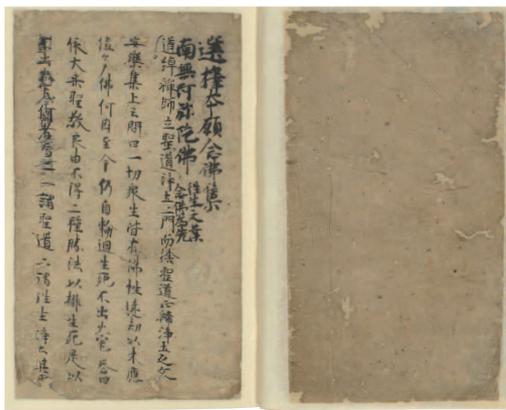
観覧料：一般2,100円(1,900円)、大学生1,300円(1,100円)、高校生900円(700円)

※( )内は前売料金

※前売券は2024年4月15日(月)まで、展覧会公式サイト等で販売。

※詳細は展覧会公式サイト等をご覧ください。

展覧会公式サイト：<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/honen2024-25/>



せんちやくほんねんぶつしゅう  
◎選択本願念仏集

鎌倉時代・12～13世紀  
京都・廬山寺蔵  
展示期間：2024年4月16日(火)～5月12日(日)

法然撰述の仏教史上重要な文獻。念仏こそが末法の世にふさわしい行であると説きます

(帖首)

特集

せいいたん ねんきねん  
生誕180年記念

ごしょうせき  
呉昌碩の世界 — 金石の交わり —

東洋館8室 2024年1月2日(火)～3月17日(日)

清朝末期から中華民国初期にかけて、呉昌碩(1844～1927)は書画篆刻の芸術に偉大な業績を遺しました。当時盛行した古代の金属器や石刻などの金石文字の研究に没頭し、金石を介して師友と親交を深め、研鑽を積み重ねます。とりわけ「石鼓文」の臨書は、呉昌碩の芸術を「金石の氣」に満ちた素朴で重厚なものへと昇華させ、代名詞となります。後年、呉昌碩は上海芸術界の中心人物となり、その作品は日本でも愛好されました。

2024年は呉昌碩生誕180年にあたり

ます。本特集はこれを記念し、「金石の交わり」のなかで築かれた呉昌碩の芸術をご紹介いたします。同じく記念の展示が開催される、台東区立朝倉彫塑館(12月16日(土)～2024年3月6日(水))、台東区立書道博物館(2024年1月4日(木)～3月17日(日))、兵庫県立美術館(2024年1月13日(土)～4月7日(日))とあわせて、呉昌碩の世界をご堪能ください。

(六人部克典)

\*太鼓形の10個の石に玉の狩狐などに関する詩を彫った篆書の銘文



①

しゅうくわんぼんすじく  
秋色爛斑図軸

呉昌碩筆  
中国 中華民国11年(1922)  
林宗毅氏寄贈  
展示期間：2024年2月14日(水)～3月17日(日)  
秋の葉鶏頭と菊を、呉昌碩らしい鮮やかな色彩と力強い筆致で表しています

しゅうしやうかいあんしゆく  
行書「槐安」軸

呉昌碩筆 中国  
中華民国15年(1926) 高嶋泰二氏寄贈  
收藏家、高島菊次郎の号を記した呉昌碩晩年の書。凄みのある線に圧倒されます



②



③

てんしよはちごんれん  
篆書八言聯

呉昌碩筆  
中国 中華民国6年(1917)  
林宗毅氏寄贈  
「石鼓文」の文字を集めた八言句の対聯\*。動感のある字姿は呉昌碩の篆書の真骨頂です

\*家の門や柱、壁などを飾る対句を表した2幅の書

# Pick up!

## 本館

扉とともに開かれる  
荘厳な神仏の世界

### 春日宮曼茶羅 彩絵舍利厨子

2024年1月16日(火)〜2月25日(日)

14室 特集 塔と厨子

厨子は内部に仏像などを安置して礼拝するための用具です。仏堂などを象つていて、扉が付くことが多く、扉を開けて拝礼したと考えられます。

本作品は基壇の裏側に銘文が残り、釈迦の遺骨と考えられた仏舍利を安置する厨子として製作されたことがわかります。扉には、舍利とともに祈禱の本尊となる不動明王と愛染明王、仏法の守護神である四天王が描かれています。奥壁に奈良の春日大社の景観が描かれているのは、春日大社の本殿第一殿の祭神が釈迦と団体であると考えられたことに依っています。

このように厨子は建物のように、内部の装飾とともにひとつの「世界」を構築していたと考えられるのです。



春日宮曼茶羅彩絵舍利厨子  
室町時代・文明11年(1479)

(清水健)

## 本館

際立つ数多の技巧、  
優美繊細な造形

### 白磁観音立像

12月12日(火)〜2024年3月3日(日)

18室 近代の美術



白磁観音立像  
初代宮川香山作  
明治時代・19世紀

腰をしならせ、曲線を描くポーズが目を引く磁器の観音立像です。手に細い柳の枝を持つところから、三十三観音(観音菩薩の化身)のひとつで、病苦からの救済を使命とする楊柳観音とみられます。体に添うように表された衣のひだには動きがあり、見えない風まで感じられます。台座もひとときわ印象的で、透かしを多く取り入れ、まるで珊瑚のようです。作者の初代宮川香山は、明治期前半に技巧的な作品を数多くつくり出しました。当館所蔵の重要な文化財「襦袢貼付台付鉢」(展示予定はありません)もその代表作ですが、本作品は思わぬため息が出るような繊細さが際立っています。

(横山梓)

## 東洋館

アッシリア帝国の栄華を  
今に伝える

### 牡牛彫刻飾板

2024年1月2日(火)〜6月9日(日)

3室 西アジア・エジプトの美術



牡牛彫刻飾板

新アッシリア時代・前8世紀  
イラク、ニムルド出土  
イラク考古総局寄贈

イラク北部にあるニムルド遺跡で発掘された象牙細工です。頭を下げ、角を突き立てる牡牛の姿が浮彫で表現されています。もともとは、ベッドや椅子などに取り付けられていた装飾板でした。フェニキア人の職人の手によるものとされ、表面に金箔が施され、目のくぼみには色ガラスか貴石が象嵌されていたと考えられます。ニムルド遺跡は古代にはカルフと呼ばれた都市で、前9〜前8世紀にアッシリア帝国の首都として繁栄しました。これまでに数千点の象牙細工が出土しています。カルフの宝物庫には、象牙で飾られた豪華な家具類が所狭しと置かれていたのです。

(小野塚拓造)

## 東洋館

垣間見える安寧への  
切なる願い

### 梵鐘

2024年4月7日(日)

10室 朝鮮の仏教美術



梵鐘 金「明昌七年」銘  
朝鮮 高麗時代・明宗26年(1196)  
徳島県海部郡海陽町大山神社旧蔵  
小倉コレクション保存会寄贈

本作品が鑄造された高麗時代は、中国地域に興った強国との間に政治的な緊張関係が続いた時代でした。鐘身に見える「明昌」銘は君臣関係にあった金王朝の元号(年号)を使用し、属国として誠実な姿勢を示すための外交戦略のひとつであったといえます。

一方、梵鐘の形状は朝鮮半島独自のスタイルを有しており、上面にひとつの龍頭と円筒状の旗挿があること、鐘身の上下に文様帯を配するなどの特徴が挙げられます。奏楽飛天の装飾は統一新羅時代から残る特徴です。この梵鐘には良好な外交関係を維持するための努力と仏教を通じて国を護ろうとする高麗の人びとの切実な願いが反映されています。

(玉城真紀子)

総合文化展 **Pick up!**



◎ 三彩有蓋壺  
奈良時代・8世紀  
大阪府茨木市安威出土

(井出浩正)

奈良時代を代表する焼き物に奈良三彩と呼ばれる施釉陶器があります。奈良三彩は、中国の「唐三彩」の影響によって8世紀初頭から9世紀初頭にかけてつくられました。緑色や褐色の釉と、透明の釉の下に透けて見える素地(白色)の、3色が織りなす鮮やかな器です。

この作品は、明治時代に方形の石櫃に納められた状態で出土した骨蔵器です。長らく地中であつたため、風化によって大部分の釉が剥落しています。が、奈良三彩の壺としては最も早い時期の優品です。高貴な人物を埋葬するために使われたのでしょうか。

重文 三彩有蓋壺  
2024年9月16日(月・祝)  
考古展示室

平成館  
長い時を経て発掘された  
奈良三彩草創期の傑作



◎ 金銅装唐組垂飾  
飛鳥時代・7世紀  
(部分)

流麗な唐草文が彫られた山形の金具や、蓮のつぼみを象った鈴をつけた壮麗な垂れ飾りです。一説には推古天皇の几帳を飾っていたといわれています。一見、織物にもみえますが、実は赤、紺、黄、萌黄色に染めた何本もの撚りの強い絹糸を交差させ組み上げた組紐で、なかでもとりわけ複雑な「唐組」という技法を用いて入子菱を表現しています。よくみると、菱型の輪郭には金糸・銀糸がみられ、これは絹糸に金や銀を巻き付けたものです。製作から千年以上経っているとは思えない、鮮やかな染めと輝かしい金色を残しています。

(沼沢ゆかり)

重文 金銅装唐組垂飾  
2024年1月10日(水)〜2月12日(月・休)  
第6室 書跡・染織

法隆寺宝物館  
華麗なる古代組紐の妙技



《マンドリンを持てる女》  
黒田清輝筆 明治24年(1891)

黒田清輝が、初めてフランスのサロン出品を目指して描いた作品です。制作中に父に宛てた書簡には、「女が琵琶を弾き終りてなにか物を思たりと云様な風情」を描いたとしています。果たしてこの説明を読んだ父は、現実の作品が想像できたでしょうか。当時のフランスでは、世俗的な女性の裸体を描くことは珍しくなっていました。黒田が、日本では黒田が本作品の3年後に制作した《朝妝》まで、本格的な裸体画が公の展覧会に発表されたことはありませんでした。結果、サロンには落選してしましますが、本作品には、黒田が呼吸していた19世紀末パリのポエミアンの空気が漂っています。

(東京文化財研究所・吉田暁子)

黒田記念室  
12月24日(日)  
マンドリンを持てる女

黒田記念館  
革新を試みる青年期の意欲作



アルバイトの皆さんと埴輪の接合検討をする山本亮研究員。形や色に着目して、埴輪を復元する作業はまさに立体のパズルのようです

(菊池望)

神奈川県横浜市のJR保土ヶ谷駅から見える小高い山の上には、瀬戸ヶ谷古墳と呼ばれる前方後円墳がありました。現在その姿を見ることはできませんが、当館収蔵の数多くの埴輪から、人や家、馬などの形をしたさまざまな埴輪が立っていたことがわかっています。これらの埴輪の多くは一部を除きバラバラの破片の状態です。未だ出土当時のままです。種類や点数もわかっていません。そこで、東京国立博物館賛助会のご支援のもと、考古室では昨年度から瀬戸ヶ谷古墳出土埴輪の調査・研究に着手しました。現在は、接合検討を通して、埴輪の数や種類、その特徴を調べているところです。いつかは瀬戸ヶ谷古墳の全容を解明できるように、日々取り組んで参ります。

破片一つひとつから  
古代の謎を解く

「調査研究」。その一端をご紹介します。

トーハクの調査研究 ②②

**4** 2024/1/2(火)-3/10(日)  
**特集「茶碗 茶の湯を語るうつわ」**  
 (→11ページ)

**茶の美術**



**黒楽茶碗 銘 尼寺**  
 長次郎 安土桃山時代・16世紀  
 仰木魯堂旧蔵 松永安左工門氏寄贈  
 手捏ねと筥削りによる楽茶碗。  
 両手にぴったりと収まるよう細かく計算されています

**青磁人形手茶碗**  
 中国 明時代・15~16世紀  
 石川県小松市波佐谷町出土

**3-3** 2024/1/2(火)-2/18(日)  
**七言絶句「峯松」**  
 一休宗純筆  
 室町時代・15世紀

**禅と水墨画**  
 鎌倉〜室町

一休が松の大樹に関する詩を淡く美しい墨線で大胆に書いています



**鍾馗図**  
 山田道安筆  
 室町時代・16世紀




**3-2** 2024/1/2(火)-1/14(日)  
**古今和歌集(元永本)上帖**  
 平安時代・12世紀 三井高大氏寄贈  
 双獅子唐花草文が雲母摺りされた料紙に春の和歌が記されています

**宮廷の美術**  
 平安〜室町




2024/1/2(火)-2/18(日)  
**酒吞童子図扇面**  
 室町~安土桃山時代・16~17世紀

**3-1** 2024/1/2(火)-2/18(日)  
**仏涅槃図** 平安時代・12世紀

**仏教の美術**  
 平安〜室町

旧暦の2月15日、お釈迦様が亡くなった時の様子を描いています




2024/1/2(火)-2/18(日)  
**十六羅漢像(第十一尊者)**  
 平安時代・11世紀

**1-1** 2024/1/2(火)-6/30(日)  
**壺形土器**  
 縄文時代(後期)・前2000~前1000年  
 青森県五戸町倉石中市日向出土

**日本美術のあけぼの**  
 縄文・弥生・古墳



**家形埴輪**  
 古墳時代・6世紀  
 群馬県伊勢崎市今井出土  
 入母屋造りの建物を象った埴輪は、古墳時代の建築を伝えます

**1-2** 2024/1/2(火)-4/21(日)  
**如来立像**  
 飛鳥時代・7世紀  
 法隆寺献納宝物

**仏教の興隆**  
 飛鳥・奈良




**通年展示**  
**興福寺鎮壇具 金銅鏡**  
 奈良時代・8世紀 奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土  
 金色の輝きが残る鏡です。側面に施された唐花文様が秀逸です

**2** **国宝室**



2024/1/2(火)-1/14(日)(部分)  
**松林図屏風**  
 長谷川等伯筆  
 安土桃山時代・16世紀  
 毎年恒例新春の特別公開。  
 モノクロームの世界をお楽しみください



2024/2/14(水)-3/10(日)  
**金光明最勝王經金字宝塔**  
**曼荼羅 第一幀**  
 平安時代・12世紀 岩手・大長壽院蔵

2024/1/2(火)-2/18(日)

四季花鳥図屏風

岡本秋暉筆 江戸時代・19世紀  
小田原藩主に仕えた秋暉は、色彩鮮やかで装飾性のある花鳥画を得意としました



(左隻)

松梅群鶏図屏風

伊藤若冲筆 江戸時代・18世紀



(右隻)

7

屏風と襦絵  
— 安土桃山〜江戸

2024/1/2(火)-3/3(日)

袖無革羽織 紅地竹雀図

江戸時代・18〜19世紀  
蜂須賀家伝来  
華やかなデザインの革羽織は蜂須賀家当主の派手好みを示しています



-2024/2/4(日)

南蛮胴具足

安土桃山〜江戸時代・16〜17世紀



5-6

武士の装い  
— 平安〜江戸

-2024/2/4(日)

青海波水鳥蒔絵螺鈿盃及び盃台

永田友治作 江戸時代・18世紀  
流行の光琳様式の流れを汲む「友治盃」は、広く知られた高級品でした



2024/2/6(火)-4/21(日)

色絵椿松竹梅文透入重蓋物

京焼 江戸時代・18世紀



8-1

暮らしの調度  
— 安土桃山・江戸

2024/1/2(火)-2/18(日)

東行記

鳥丸光広筆 江戸時代・17世紀  
京から江戸へ道中の名所を和歌と絵を交えた奔放な筆で綴ります



(部分)

日金山頂望富嶽図

広瀬台山筆 江戸時代・寛政11年(1799)  
日金山(十国峠)から富士山を中心に、東西ほぼ180度の風景を描いています



8-2

書画の展開  
— 安土桃山〜江戸



9

能と歌舞伎

2024/1/2(火)-3/3(日)

舞衣 紅地丁字立涌牡丹模様

江戸時代・18世紀 毛利家伝来  
宮廷好みの丁子唐草模様を絢爛豪華に織り出しています



厚板 濃茶茶浅葱段雲籠

江戸時代・18世紀  
力強い雲籠模様は、鬼神役に用いられた衣装でしょう

浮世絵



(部分)

2024/1/2(火)-2/4(日)

隅田川図巻

鳥文斎栄之筆 江戸時代・19世紀  
恵比須、大黒天、福祿寿の三福神が吉原に通う道中を描いた絵巻です

衣装

2024/1/2(火)-3/3(日)

小袖 黒紅綸子地草木 鶴亀幾何学形模様

江戸時代・17世紀  
金箔・絞り・刺繍の豪華な「地無」模様は江戸時代初期の流行です



2024/2/6(火)-3/10(日)

見立鉢の木

鈴木春信筆 江戸時代・18世紀  
大事な鉢の木を火にくべて他人をもてなした謡曲「鉢木」に取材した作品です



(部分)

袱紗 紺緞子地鯛模様

江戸時代・18〜19世紀  
アンリー夫人寄贈  
おめでたい「鯛」の模様をユーモラスに刺繍で表現しています



10

浮世絵と衣装  
— 江戸

12・1・2月  
本館展示  
日本美術の



15

12/12(火)-2024/1/14(日)

禽譜 山禽2

堀田正敦編 江戸時代・18~19世紀

好学の大名堀田正敦が作らせた彩色図と解説からなる鳥類図鑑です



(部分)

2024/1/16(火)-2/12(月)・(休)

禽譜 山禽1

堀田正敦編 江戸時代・18~19世紀



14

-2024/1/14(日)

「大聖寺藩(石川県)前田家伝来の能面」

能面 大遷見

「一透作/佐渡嶋/久知住」刻銘 室町時代・15~16世紀 文化庁蔵



2024/1/16(火)-2/25(日)

「塔と厨子」(→6ページ)

こんどうそうすいしやう ころんとうがた 金銅装水晶五輪塔形 舍利容器

室町時代・15世紀



歴史の記録

特集

案内 1階 展示



13-3

2024/1/2(火)-3/10(日)

色絵荒磯文鉢

伊万里 江戸時代・17~18世紀

伊万里焼金襴手の作例。赤地と萌黄地の組み合わせで豪華な気分を醸し出しています

陶磁



2024/1/2(火)-6/2(日)

色絵牡丹図水指

仁清、「仁清」印 江戸時代・17世紀



13-2

2024/1/2(火)-3/3(日)

太刀 三條宗近(名物 三日月宗近)

三條宗近 平安時代・10~12世紀 渡邊誠一郎氏寄贈

天下五剣のひとつとして名高い名刀。三日月形の特徴的な刃文に注目

刀剣



短刀 左安吉(名物 一柳安吉)

左安吉 南北朝時代・14世紀 渡邊誠一郎氏寄贈



11

-12/24(日)

文殊菩薩騎獅像

(文殊菩薩騎獅像 および侍者立像のうち)

康円作 鎌倉時代・文永10年(1273) 奈良・興福寺伝来



彫刻



2024/1/2(火)-4/7(日)

吉祥天立像

京都府亀岡市・大宮神社伝来 インド神話に由来する豊穡や幸福をもたらす女神です

12

-12/24(日)

色紙短冊蒔絵歌書籍

江戸時代・17世紀 水戸徳川家伝来



漆工

2024/1/2(火)-3/10(日)

源氏物語蒔絵源氏簞笥

江戸時代・17~18世紀

「源氏物語」を収める簞笥。金銀交えた多彩な金属の粉で濃密に装飾しています

13-1

-2024/2/4(日)

八角面取釜

江戸時代・17世紀 広田松繁氏寄贈

八角形の釜で、うち6面に中国の名所・瀟湘八景を表しています

金工



2024/2/6(火)-5/6(月)・(休)

七宝花瓶四君子図水注

江戸時代・18世紀

渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈



# 本号のトピック

本館4室リニューアルオープン!

## 特集 茶碗 茶の湯を語るうつわ

2024年1月2日(火)～3月10日(日)

2024年1月、本館4室「茶の美術」がリニューアルします。日本文化を代表する「茶の湯」をもっと身近で親しいものを感じていただくために、展示ケースや照明、解説パネルなど各所に工夫を凝らしました。新しい展示テーマは「一期一会」。これは、日本人が茶席において一番大事にしてきた精神でもあります。ぜひ当館にお運びいただき、作品との出会いの時間を味わっていただきたいと思います。

リニューアル最初の展示は、特別展「本阿弥光悦の大世界」(→4ページ)にちなんで開催します。本阿弥光悦(1558～1637)が生きた16世紀後半から17世紀初頭の茶の湯の動向に注目し、中国、朝鮮、東南アジア、そして光悦の創作の原点ともいうべき茶碗をはじめとする日本の茶碗をまとめてご紹介します。特別展とあわせてどうぞお楽しみください。(三笠景子)



**灰被天目** 中国 元～明時代・14～15世紀 広田松繁氏寄贈  
二層の釉による独特の景色が灰を被ったように見えることから「灰被」と呼ばれます



**魚屋茶碗 銘 さわらび** 朝鮮 朝鮮時代・16～17世紀 広田松繁氏寄贈  
灰色の地に枇杷色の斑模様が見れた、表情豊かな高麗茶碗の名品です



**黒楽茶碗** 道入作 江戸時代・17世紀 広田松繁氏寄贈  
つやのある黒釉と薄づくりながらおらかな雰囲気が印象的な樂家三代道入の茶碗です

\*本特集に関連する講演会を開催予定です。詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。

-2024/1/14⑩

ふね もけい  
**船(模型)**

北海道アイヌ 19世紀  
農商務省北海道事業管理局寄贈  
イタオマチップと呼ばれる外洋船で、主に交易に使われました



2024/1/16⑩-2/25⑩

ちまこ  
**茶庫**

沖縄本島 第二尚氏時代・19世紀



16

アイヌと琉球



## 本館展示 ジャンル別

18

12/12⑩-2024/3/3⑩

あめうり  
**飴売**

チャールズ・ワーグマン筆  
明治時代・19世紀



近代の美術



2024/1/23⑩-3/3⑩

うめ はす  
**梅と蓮**

大智勝観筆 大正9年(1920)  
深見吉之助氏寄贈

清らかな画面から気品ある梅の香りが漂ってくるようです

(右隻)

※掲載されている催し物につきましては、今後、予告なく変更・中止する場合がございます。当館ウェブサイト等でご確認ください。また、動画配信については、公開済、公開予定のコンテンツを掲載しています。

# みどりのライオン



## 講座、トーク

### 連続講座 「生誕180年記念 呉昌碩の世界」<sup>ごしょうせき</sup> ◆

事前申込制 (ウェブサイトフォーム)

本特集(→5ページ)を開催する台東区内3館の研究員が、展示作品にふれながら、呉昌碩の多彩な芸術世界とその魅力に迫ります。2日間(全5講)ご参加いただける方が対象です。

- 2024年2月2日(金)
  - 第1講 13:30~13:50 「だれそれ!? 呉昌碩」  
富田淳(九州国立博物館長)、鍋島稲子(台東区立書道博物館 主任研究員)
  - 第2講 14:00~14:45 「清朝碑学派と呉昌碩」  
六人部克典(当館 研究員)
  - 第3講 15:00~15:45 「上海画壇と呉昌碩」  
植松瑞希(当館 主任研究員)
- 2024年2月3日(土)
  - 第4講 13:30~14:15 「朝倉文夫《呉昌碩像》について」  
戸張泰子(台東区立朝倉彫塑館 主任研究員)
  - 第5講 14:30~15:45 「なぜなに!? 呉昌碩」  
富田淳(九州国立博物館長)、鍋島稲子(台東区立書道博物館 主任研究員)

会場: 平成館大講堂(受付開始は13:00予定)  
定員: 380名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)  
聴講料: 無料(ただし初日の入館料が必要。2日目は初日にお渡しする受講資料でご入館いただけます。)  
申込方法: 当館ウェブサイトのフォームからお申込みください  
申込期間: 12月4日(月)~2024年1月4日(木) 23:59まで  
お問合せ: TEL 03-3822-1111(代) 教育講座室  
\*詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

### 東京藝術大学大学院インターンによるスライドトーク

※開始時間: ① 13:20~、② 14:20~

#### 青木木米作「梁付龍滄文提重」の魅力

日時: 2024年 ① 1月10日(水)、24日(水)、2月7日(水)  
② 1月14日(日)

解説: 納多由紀乃(美術研究科芸術学専攻 工芸史研究室)

#### 「還城楽図額」と刀装具の技術

日時: 2024年 ① 1月14日(日)、21日(日)、2月4日(日)  
② 2月18日(日)

解説: 吉田倫(美術研究科芸術学専攻 工芸史研究室)

#### 岸竹堂「虎」を読解する

日時: 2024年 ② 2月4日(日)、14日(水)、21日(水)、25日(日)  
解説: 高柳祿(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)

#### 鈴木春信「見立鉢の木」にみる見立の手法

日時: 2024年 ① 2月14日(水)、18日(日)、21日(水)、25日(日)  
解説: 押野みのり(美術研究科芸術学専攻 日本・東洋美術史研究室)

会場: 本館地下1階 みどりのライオン

\*参加無料(ただし当日の入館料が必要)、事前申込不要。当日会場へお越しください。(途中入退場可)

\*各回20分程度です。同じ解説者の解説は各日同内容です。

## お知らせ

### 令和6年度東京国立博物館ボランティア募集のお知らせ

令和6年(2024)4月から活動を開始するボランティア約50名を募集します(任期3年間で予定)。募集要項は館内配布のほか、当館ウェブサイトよりダウンロードできます。活動内容・応募条件をご確認のうえ、当館ウェブサイトのフォームからご応募ください。



ボランティア活動の様子

応募受付: 11月28日(火)~12月21日(木) 23:59まで  
お問合せ: TEL 03-3822-1111(代) ボランティア室  
\*詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。

### オンライン

#### ギャラリートーク

#### 「博物館でアジアの旅 アジアのパーティー」

講師: 児島大輔(日本・東洋彫刻)

今年で10年目を迎えた秋の恒例企画「博物館でアジアの旅」(展示は終了しました)。今回のテーマは「アジアのパーティー」です。さまざまなパーティーのかたちを、作品からご観いただけます。



#### 「旧十輪院宝蔵(校倉)一屋外展示を楽しむ」

講師: 沖松健次郎(日本絵画)

法隆寺宝物館北側にひっそりと建つ重要文化財「旧十輪院宝蔵(校倉)」。この建築は、実は日本で4棟しか現存しない中世の校倉建築のひとつで、内部に壁画が残るとても貴重な例です。普段公開していない壁画と共にご紹介いたします。



#### 「死者の枕」

講師: 河野一隆(日本考古)

古墳から出土する石枕は死者の頭を支える道具で、関東地方では石製立花(石枕に立てる石製の葬具)と共に、儀礼で使用されました。その起源や当時の死生観についてひも解きます。

## フチ トークキッズデー

2024年2月23日(金・祝)に、今年度最後の「フチ・キッズデー」を行います。お茶室について学ぶイベントや、親子で一緒に楽しめる展示、作品に関わるクイズなど、お子様にも参加いただける楽しい催しを企画しています。ぜひご家族一緒にお楽しみください。



キッズデーの様子(2022年)

\*詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。

※月例講演会は当館大講堂にて実施しております。詳細は当館ウェブサイトをご確認ください。(事前申込制)



ご自宅等でお楽しみいただけるよう YouTube による動画を配信しています。

東京国立博物館 YouTubeチャンネル



# ちゅうそんじ 中尊寺のかざり

特集  
親子の  
ギャラリー

本館特別2室 2024年1月23日(火)～3月3日(日)

親子のギャラリーとは、  
美術作品や制作技法への興味や関心を促すことを目的に、  
子どもから大人までを対象とした教育普及展示です。

今回の特集「親子のギャラリー」は特別展「中尊寺金色堂」(→4ページ)と連携し、「中尊寺のかざり」がテーマです。中尊寺金色堂の堂内荘厳や仏具のあり方をご紹介しますとともに、漆工(螺鈿)と金工分野を取り上げて、その制作技法に注目して展示します。専門家の制作した模造や工程見本に加え、映像や触察ツールなどを用いることで多くの方々にわかりやすく展示内容を伝えます。ぜひ特別展とあわせてご覧ください。(品川欣也)

## らでん 螺鈿

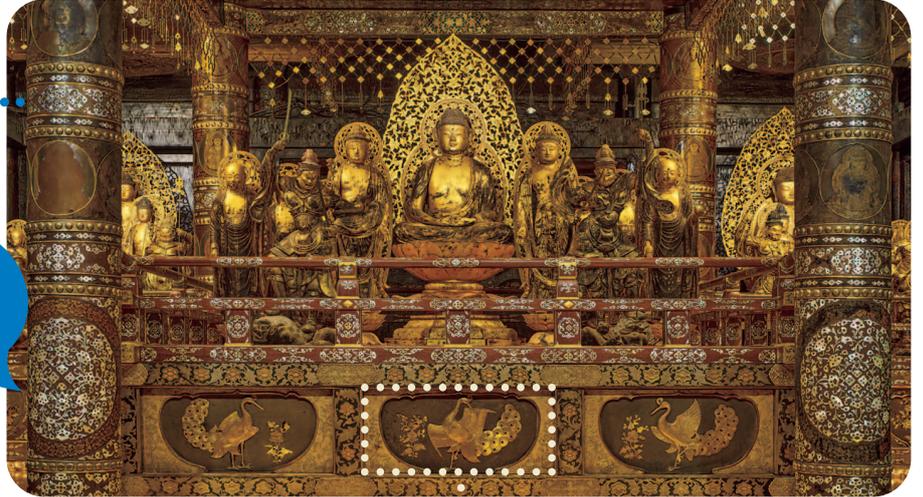
中尊寺には螺鈿細工で美しく飾られた仏具が伝来しています。その復元模造品を通して制作当初の輝きをご覧ください。



建物の内外すべてが金色といわれる金色堂ですが、輝きを添える螺鈿細工も魅力のひとつです

### らでんへいじんあん 螺鈿平塵案(模造)

小西美術工芸社制作 平成12年(2000)  
原品:平安時代・12世紀 岩手・中尊寺大長寿院蔵



中尊寺金色堂中央壇

## きんこう 金工

中尊寺金色堂の須弥壇にあしらわれた優美な孔雀。制作工程見本とハンズオンを用いてその魅力を伝えます。



工程見本のモデルとなった孔雀



孔雀の模造制作のために専門家を交えて議論しています

## ほかにもいろいろ

### 障がいのある方のための 特別鑑賞会

特別展「中尊寺金色堂」、特集「親子のギャラリー 中尊寺のかざり」では、障がいのある方のための特別鑑賞会を開催します。

2024年1月29日(月)

障がい者手帳等をお持ちの方とその介護者(原則1名まで)がご参加いただけます。

※事前申込(時間指定制)。希望者が多い場合、抽選を行います。

※入場後は16:00までご自由にご観覧いただけます。

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

### リーフレット 仏さまをかざるものたち

仏さまの世界はとても美しく清らかだといえます。その世界を飾る動物や植物をご紹介しますリーフレットを会場にご用意します。さまざまな方が楽しめるよう、日本語に加え英中韓の3か国語版を配布(なくなり次第終了)するほか、点字版もご利用いただけます。仏さまの世界をより深く感じる手助けになるはずです。

#### 宝相華(ほうそうげ)

宝相華は美しい花の模様の植物です。漢(中国)から日本へ伝来した植物で、美しい花の模様が特徴です。6枚の花びらにはそれぞれ異なる色があり、花びらの間に葉が咲きます。宝相華は、牡丹(ぼたん)や芙蓉(ふよう)など、花びらや葉の形が異なる花をイメージしてつくられた花模様です。



イメージ

### 手で見るトーハク うるし 「漆の飾り—螺鈿」

漆の作品を飾る技「螺鈿」を、触りながら知ることができる触察ツールができました。工程を経るごとに手触りが少しずつ変わります。触って螺鈿の工程を確認した後、螺鈿の技を使った作品をご覧ください。英語、点字解説付きです。

実際に触って感触を確かめてください



触察ツールの一部

## 「埴輪 踊る人々」の修理 (続報)

「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」へのご寄附により進められている「埴輪 踊る人々」の修理は、現在、解体やクリーニング作業が終わり、ひび割れや欠失部分を補填し、作品を復元する工程に入っています。修理作業の様子はウェブサイトでも詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。



樹脂をひび部分に入れて補填します



当館ウェブサイト内  
「修理の進捗について」ページ

## 「台東区立書道博物館・東京国立博物館 連携企画」 毎日書道顕彰特別賞受賞について

中国と日本の書の魅力を幅広くご紹介するために2003年に始まった、台東区立書道博物館と当館との連携企画が、2023年で20周年を迎えました。2023年6月、書道文化の発展に大きく貢献したことが評価され、本連携企画が毎日書道顕彰特別賞に選ばれました。



表彰式の様子



1089 プログ  
「毎日書道顕彰特別賞受賞と  
20年の歩み」

## 特別展チケットプレゼント

特別展「法然と極楽浄土」  
(2024年4月16日<火>～6月9日<日>)、→3  
ページ)の無料観覧券(10組20名様)を  
プレゼントします。締切は2024年3月11  
日(月)必着。

### \*プレゼントの応募方法

はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりが  
な)、性別、年齢、ならびにこの号で一  
番おもしろかった記事をご記入のうえ、  
下記までお送りください。発表は発送を  
もって代えさせていただきます。

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9  
東京国立博物館 広報室「ニュース12-2月号」プレゼント係



どしどし応募して  
ほしいほー!



チケットプレゼントは、  
今号で一番おもしろかった記事は  
はがきにご記入ください



## 休館・閉室情報

12月19日(火)は電気設備等保守点検のため、臨時休館します。

12月25日(月)～2024年1月1日(月・祝)は休館します。

また、展示環境整備のため、展示室の一部を以下の通り閉室します。  
本館2階(便殿を除く)、本館13室:12月5日(火)～12月24日(日)  
本館特別3室:12月12日(火)～12月24日(日)

## 総合文化展の開館時間延長について

11月3日(金・祝)より、金曜、  
土曜日は総合文化展の開館時  
間を19時まで延長します。

※入館は閉館の30分前まで。

※黒田記念館は17時閉館です。

※特別展の開館時間等については、展覧  
会公式サイトまたは当館ウェブサ  
イトをご覧ください。



撮影:菊池 良助

## 『東京国立博物館百五十年史』刊行

当館は、令和4年(2022)に創立150年を  
迎えたのを機に、この度『東京国立博物  
館百五十年史』(本編、資料編の2冊本)  
を刊行しました。1973年刊行の『東京国  
立博物館百年史』と装幀は同じですが、  
創立からの歴史を改めて検証し、当館が  
これまで果たしてきた役割を確認しつ  
つ、全8章の構成でご紹介しています。  
本書は、本館1階ミュージアムショップで  
発売中です。

東京国立博物館百五十年史 価格:10,000円(税込)

東京国立博物館百五十年史 資料編 価格:10,000円(税込)



## TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

VR作品『冬木小袖 光琳が描いたきもの』12月24日(日)まで

天才絵師・尾形光琳が描いた唯一無二  
の小袖(冬木小袖)がどのように生まれ、  
また令和の修理プロジェクトでどのよ  
うに蘇ったのか、江戸時代の小袖のモー  
ドもご紹介しながらその魅力とともに迫  
ります。当時の人びとの着こなしを3DCG  
で再現するなど、華やかなきもの世界  
を大スクリーンでお楽しみいただけます。

料 金:一般・大学生・高校生:600円、  
小学生・中学生:300円、未就  
学児・障がい者とその介護者各  
1名は無料(1作品/1回あたり)、別途入館料が必要です。

上演時間:約35分

※開演時間までにシアター前券売機にてチ  
ケットをお買い求めください(当日券のみ)。

### 〔予告〕

VR作品『江戸城の天守』  
2024年1月2日(火)～4月14日(日)



※演目・スケジュール・定員は、都合により変更や休演となる場合がございます。

※詳細、最新の情報はウェブサイト(<https://www.toppa-vr.jp/mt/>)をご覧ください。

## 12・1・2月の休館日情報

休館日	12月	1月	2月
	4日、11日、18日、19日、25日～31日	1日、9日、15日、22日、29日	5日、13日、19日、26日

※2024年1月2日(火)は臨時閉館します。

※開館時間、休館日等の最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

### ◆東京国立博物館利用案内

総合文化展観覧料金 一般1,000円、大学生500円

- 事前予約は不要です。  
※混雑時には展示施設前でお待ちいただく可能性があります。  
※特別展の入館方法は展覧会ごとに異なります。  
詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。
- 障がい者とその介護者各1名は無料。  
満70歳以上、高校生以下および満18歳未満の方は無料。

\*詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

最新情報は、ウェブサイト、Facebook、X(旧Twitter)、Instagram、メールマガジンで!

東京国立博物館ウェブサイト  
<https://www.tnm.jp/>



### ◆東京国立博物館賛助会員(寄附会員制度)募集のご案内

東京国立博物館の運営の趣旨にご賛同いただける団体・個人向けの寄附会員制度です。賛助会費(ご寄附)は、文化財の購入、修理、教育普及事業など、博物館運営に充てられます。寄附金控除の対象になります。

【主な特典】特別展内覧会へのご招待 など

【年会費】〈団体〉プレミアム会員 1,000万円以上、  
特別会員 100万円(1口)、維持会員 20万円  
〈個人〉プラチナ会員 100万円以上、  
ゴールド会員 20万円、シルバー会員 5万円

【申込方法】会員受付窓口、ウェブサイト(クレジットカード決済)、  
銀行振込

\*詳細は担当までお問合せください。

### ◆東京国立博物館会員制度

東京国立博物館では、1年間のうち何度でもご来館いただける会員制度をご用意しております。



会員制度の詳細  
はこちら

#### 友の会

発行から1年間有効 年会費:7,000円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能。東京国立博物館の特別展観覧券を3枚と、ミュージアムシアター観覧券1枚、ショップ・レストラン割引などさまざまな特典があります。

\*本誌の郵送をご希望される場合は、別途「東京国立博物館ニュース」の定期購読をお申込みください。

\*2022年10月18日(火)～2023年12月30日(土)の間に期限切れとなる東京国立博物館の特別展観覧券(会員制度特典)は、2023年12月31日(日)までの有効期限となります。

\*特別展が事前予約制の場合は、事前予約が必要となります。

#### 国立博物館メンバーズパス(4館共通)

発行日から1年間有効 年会費:一般2,500円、学生1,200円

【特典】東京・京都・奈良・九州の国立博物館の総合文化展・平常展を何度でも観覧可能です。

### 東京国立博物館ニュース定期購読

年会費:1,000円(1年分)

【特典】東京国立博物館ニュースを年4回、1年分ご指定の場所に送付いたします。

\*次号(3-5月号)より送付をご希望の場合、締切は2024年2月10日(土)です。

### ○申込方法

#### 1. 会員受付窓口

当館正門前の会員受付窓口で即日発行し、当日からご使用いただけます(現金またはクレジットカード、電子マネー)。

#### 2. ウェブサイト

専用申込フォームからお申込みください(クレジットカードまたは郵便振替(振替用紙を送付))。

#### 3. 郵便振替

●振替用紙に①種別(友の会、4館共通、ニュース)、②区分(一般、学生(4館共通のみ))、③メールアドレス(メールマガジン希望者のみ)、④郵便番号、⑤住所、⑥氏名(ふりがな)、⑦電話番号を通信欄・ご依頼人欄にご記入の上、下記口座までお振替ください。

加入者名:東京国立博物館会員制度

口座番号:00140-3-791791

●友の会または国立博物館メンバーズパス(4館共通)にお申込みの方で、「東京国立博物館ニュース」の送付をご希望の方は、振替用紙に『東京国立博物館ニュース定期購読希望』とご記入のうえ、各会費に追加料金として1,000円を加えた金額をお振替ください。

●振替用紙の半券が領収書になります。有効期限終了まで保管してください。

●振替手数料はお客様負担となります。

●ご入金確認日より会員証等がお手元に届くまで、2週間程度かかります。

\*一度納められた料金の払い戻しはいたしません。

\*お申込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

○お問合せ 電話 03-3822-1111(代) / FAX 03-3821-9680 総務課渉外開発担当 \*月～金曜日の9:30～17:00(土日・祝日は除く)

# 表紙の名品

2023年12月・2024年1月・2月号

## 重要文化財 十二神将立像 (辰神)

2024年1月2日(火)～1月28日(日)

本館特別1室

(特集「博物館に初もうて 謹賀辰年一年の初めの龍づくし」)

### 睨み利かせて たつすがた 今年1年の安寧願う

龍の頭を兜かぶとの上に表し、眉をギュッと寄せて下方を睨みつけ、口をへの字に強く結びます。右手を剣の柄つかにかけて右肩を前に突き出し、右足をぐつと一歩踏み込んで、今にも剣を抜かんとする緊迫した瞬間を表現しています。力が入った立ち姿は、まるで大見得おほみひを切る歌舞伎役者のようです。

本像は十二神将のうちの一軀で、辰神像です。十二神将は薬師如来やくしにょらいに付き従う眷属けんぞくで、いわばガードマンの役割を担います。また、十二神将は薬師如来が菩薩であったと

きに発した12の大願たいがんを象徴したのも面白い、薬師如来の分身のような存在でもありません。そして日本では十二支と結びつき、本像のように十二支獣を頭部などに表すことも多く行われました。

本像を含む十二神将像は、京都・浄瑠璃寺じやうるりじに伝来しました。明治時代初期に寺を離れ、このうち子神こがみ・丑神うしがみ・寅神とらがみ・卯神うさぎがみ・午神うまがみ・酉神とりがみ・亥神いがみの7軀が東京・静嘉堂文庫美術館せいけいどうぶんこ美術館に所蔵され、辰神あき・巳神み・未神みづの・申神まを、戌神像いぬがみの5軀を当館が所蔵しています。



◎十二神将立像(辰神)

京都・浄瑠璃寺伝来  
鎌倉時代・13世紀

1889年のパリ万博にも出品  
されました。ダイナミックな  
動きにご注目ください